

# Monthly Report

Vol.69 / 2012 Jan.

## 大崎市教育委員会と連携協力に関する覚書締結

~ 県北の自治体との連携は初 ~



1月13日(金)、大崎市教育委員会と本学は連携協力に関する覚書を締結しました。今回の締結により 児童・生徒の学校生活の支援、教員養成や職員の研修、生涯学習および生涯スポーツ事業への協力、大学および学校における教育研究面での協力、その他双方が必要と認める事業において連携協力が図られます。大崎市岩出山庁舎で行われた調印式で大崎市の矢内諭教育長は「大学の持っている教育財産でスポーツ教育や健康づくりを支援してほしい」と話し、朴澤学長は「指導者を目指している学生が多いので、学生にも研修の場を提供していただきありがたい」と述べました。

大崎市教育委員会と本学はこれまでも交流があり、仲野隆士教授が大崎市スポーツ振興審議会のアドバイザーとなって振興計画策定の際に助言し、また、藤井久雄教授と学生が鬼首小学校でのクロスカントリースキー教室の指導を行なってきました。また、3次補正予算で採択された「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を具体的に展開する地域の対象地ともなります。

今回の締結により更なる連携協力が期待されます。

### 仙台大学の地域連携事業

<http://www.sendaidaigaku.jp/koryu/chiiki.html>

## 目次

大崎市教育委員会と連携協力に関する覚書締結	1
伊達なSPORT PROJECT コースオリンピック開幕	2
仙台大学同窓会へ感謝状 高校会から壁掛時計設置	3
東北楽天ゴールデンイーグルス選手がトレーニング	4
台東大学から短期留学生 多文化アカデミー 語学研修	5
David Dowell氏が来訪 短期海外研修合同結団式	6
学生の活躍	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら 広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 伊達なSPORT PROJECT 第1回ユースオリンピック開幕

～ 応援ありがとうございました～



写真提供：柳谷新助手

第1回ユースオリンピック冬季大会ヘスケルトン競技での選手輩出を目標として、鈴木省三教授が中心となって2010年に立ち上げた「伊達なSPORT PROJECT」は、佐藤 弾選手、野倉大貴選手、安藤早紀選手（共に柴田高校2年生）の3

名をユースオリンピックに出場させ、大会を無事に終えることができました。選手は大会期間中、試合に向けたコンディション作りとともに、CEP（文化・教育プログラム）に積極的に参加し、オリンピックの意義である卓越性、尊重、友情を学び、実感し、表現できるようになること実践してきました。このプロジェクトは地産地消を活用した食育を一つのテーマとし、必要な栄養素を宮城県に所在する企業の方々から提供いただくなど、多くの方々の支えにより進めてまいりました。温かいご声援をありがとうございました。

### ユースオリンピック結果

<男子>

佐藤 弾 選手 第9位

野倉 大貴選手 第10位

<女子>

安藤 早紀選手 第14位

## 明成高校調理科リエゾンキッチン」第61回河北文化賞を受賞



明成高校調理科リエゾンキッチンが、東北の学術・芸術・体育・産業・社会活動の各部門で顕著な業績を挙げた個人・団体を顕彰する「第61回河北文化賞」を受賞しました。明成高校調理科リエゾンキッチンとは、「リエゾン（liaison）＝連携・つながること」をテーマとして、地域との連携により伝統的な仙台みそや仙

台白菜などの食文化を伝え、食育活動を展開する食環境デザインプロジェクトです。本学園は創立120周年の節目の年（平成11年）にも実学教育による120年の人材育成の功績が認められ同賞を受賞しており、今回が本学園としては2度目の受賞となります。



1月17日（火）に仙台国際ホテルで行われた贈呈式には朴澤理事長が登壇し、河北文化事業団理事長の一力雅彦氏より表彰状と記念品が授与されました。なお、当日は明成高校調理科の生徒が会場入口に設けられた紹介コーナーで来場者に対してリエゾンキッチンの取り組みを紹介しました。

写真提供：明成高校

## 仙台大学同窓会へ感謝状贈呈



仙台大学では、災害ボランティア用車両購入費として仙台大学同窓会より1千万円の寄付をいただきました。1月17日（火）に行われた第852回教授会の冒頭で、朴澤学長より仙台大学同窓

会に対して感謝状が贈呈され、感謝の意が伝えられました。

16日（月）にはワゴン車（トヨタ・HIACE）も納品され、先に納品されたマイクロバスと共に災害ボランティア活動で活用させていただきます。



## 仙台大学高校会から寄贈の壁掛時計 第5体育館に設置

10月のマンスリーレポートでも紹介していましたが、仙台大学高校会（本学の卒業生で、宮城県内の高等学校の教員で組織している会）から寄贈いただいた壁掛時計（SEIKO製、LED式デジタル時計）が1月24日（火）に第5体育館1Fエントランスに設置されました。玄関を入ると一目で確認できるたいへん見やすい時計です。諸先輩方の熱い思いが込められた時計が高校の教員を目指す学生達にとって力強い励みとなることでしょう。



## 大学入試センター試験が無事に終了



1月14日（土）、15日（日）に大学入試センター試験が行われ、本学でもセンター試験企画プロジェクトを中心とする教職員・新助手が8度目となる仙台大学試験場の実施運営及び試験監督業務を担当しました。今年度から地理歴史、公民及び理科において2科目受験が導入されましたが、本学ではトラブルなく実施することができました。本学会場ではJRの遅延により試験時間を40分繰り下げて別室で受験した生徒が1名いたものの、2日間とも大きなトラブルもなく、スムーズな試験運営がなされました。ご担当された教職員・新助手の皆様、たいへんお疲れ様でした。

## 東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手が本学で体力測定



昨年10月のプロ野球ドラフト会議を経て、東北楽天ゴールデンイーグルスに入団した新人7選手が1月17日（火）に本学で体力測定を実施し

ました。測定したのは身長・体重・体脂肪の基礎測定と、専門機器を使用しての最大酸素摂取量と膝屈曲伸展の計測です。計測された数値は自身の体力レベル把握と、トレーニングメニュー組み立ての指標となります。

本学では昨年も新人選手を受入れて体力測定を行ったほか、選手個人の依頼を受けて低酸素トレーニング等を実施しています。



## 東北楽天の4選手が低酸素トレーニング実施

1月26-29日には川岸強投手、石志嶺忠捕手、山本大明捕手、西村弥内野手、阿部俊人内野手の4名が低酸素トレーニングを行いました。川岸、西村選手が本学で自主トレを行うのは3年目、石志嶺、阿部選手は昨年引き続きの低酸素トレーニングです。

今年は例年のように宿泊してのトレーニングではありませんでしたが、低酸素状態でのバイクは慣れた選手たちも辛そうな様子でした。トレーニングは高橋弘彦教授指導のもと行われ、同ゼミ生も計測に協力しました。



## 東京就職合同説明会・弾丸ツアー



意見交換会の様子 写真提供：鈴木職員（入試創職室）

1月20、21日に東京就職合同説明会に参加するために弾丸ツアーが生まれ、3学年30名が参加し

ました。弾丸ツアーは就活塾の取り組みの一つとして昨年はじめて組まれたもので、大学の取り組みとして行うのは今回が初めてです。弾丸ツアー参加者には事前研修として体育大学学生の強みと弱みについての理解や、自身の長所・短所を客観的に分析する時間を設けて説明会への準備を行いました。ツアーには入試創職部長の中房教授・入試創職室の鈴木職員も同行し、移動する車中でも合同企業説明会の効率的な回り方などの指導もなされました。合同説明会後には首都圏学生との情報交換会も実施され、上智大学・日本女子体育大学など首都圏の就職活動状況を直接聞き、就職の厳しい現状を再確認していました。なお、弾丸ツアーは保護者会からの支援で賄われています。

## 台東大学短期交換留学生を受け入れ



1月19日 - 2月9日に、国際交流協定を締結している台東大学（台湾）から3名の短期交換留学生を受け入れております。留学生は滞在中、実技を中心に講義に出席するほか、日本の伝統文化である着物の着付けや茶道、華道などを体験する予定です。1月20日（金）にはウェルカムパーティーが学生食堂で開かれ、教職員や学生・外国人留学生の約40名が参加して歓迎しました。

朴澤学長の挨拶では「東日本大震災により、台  
ロゲンチュウ  
東大学からの留学生は盧彦中さんだけになって  
いました。今回こうして3名の留学生にお越しい  
ただくことができ、仙台大学としてもたいへん  
嬉しく思っています。仙台大学には中国・韓  
国・タイ王国からも留学生が来ているので是  
非、交流を深めてください」と話されました。  
短期留学生の挨拶では3名共に日本語で名前と台  
東大学での所属学科、趣味等を話し、出席者か  
ら拍手喝采でした。

2月9日まで本学に滞在しますので、学内で  
会った際は話しかけてみてください。

### 台東大学留学生

ウェイ・チーイン

魏 綺 瑩（教養学科3年）

チェン・イーイン

陳 宜 吟（応用科学学科3年）

ユー・イーチェン

宜 鞍 箴（英米言語学科2年）

## 東北多文化アカデミーで日本語短期研修が修了



平成24年度から本学大学院で学ぶ中国人留学生の3ヶ月に及ぶ日本語短期研修の日程が修了し、12月27日（火）には修了発表会と修了式が研修先である東北多文化アカデミーで行われました。朴澤学長と学生支援室の千葉室長、大学院の馬臨時職員も出席しました。

東北多文化アカデミーの日本語短期研修は昨  
年からはじまったもので、大学院の講義を理解  
するだけの日本語能力を向上させることが目的  
です。また、日本語能力が東北多文化アカデ  
ミーで設定する一定の基準をクリアした場合、  
研修中の寮費の一部を本学が補填すること  
としているため、留学生たちはより真剣に勉強  
に努めました。



## カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のDavid Dowell副学長が来訪



1月23日（月）に本学が交流締結しているカリフォルニア州立大学ロングビーチ校のDavid Dowell副学長ご夫妻が来学し、朴澤学長と懇談や施設見学を行いました。David Dowell副学長は東北大学で開かれたる会議出席のために来仙し、去年10月の本学大学祭でご講演くださった同大学のジョシ学部長とキーナート副学長がやりとりをして実現したものです。国際交流センター長の鎌田教授や事業戦略室、同大学大学院卒業の加賀新助手なども対応し交流を深めました。



## 平成23年度冬季 短期海外研修合同結団式

～ 海外の4つの大学（5つの研修・短期留学）で研鑽を深める学生達～



大学を代表して行く意識をもって参加すること」とお話しがありました。学生達は「海外と日本のさまざまな違いを学んできたい」「将来はNBAチームのトレーナーになりたい」など、一人一言ずつ抱負を述べ、研修への意欲を高めていました。

最後に鎌田国際交流センター長より「国の支援同様、保護者会からの援助があることを忘れず、感謝の気持ちを持って実り豊かな経験ができることを願う」とのご挨拶があり、終了しました。全員が真剣に異国での勉強に取り組み、全プログラムを全うして帰国することを願うと共に、報告会での成果発表がより充実したものになるよう期待されます。

1月24日（火）、ハワイ州立大学（英語研修）・同大学（アスレティックトレーニング研修）、カヤ二応用科学大学、韓国国立体育大学、台東大学においてそれぞれ研修・短期留学する学生達が一同に会し、合同の結団式が開催されました。（参加者は別紙記載の通り）

上記5つの内容（4大学）で学ぶ総勢26人の学生達を含め、45人もの関係者が出席した結団式はかつてない規模となりました。これら全てが、平成23年度の（独）日本学生支援機構の留学生支援奨学金制度の採択を得た結果によるものであり、体育系大学としては仙台大学のみが獲得した実績であり、本学における国際交流が確実に飛躍・進展していることをうかがわせるとともに、着実な成果が求められるところとなりました。

最初に朴澤学長から「国の支援を受け学生のうちに海外で学ぶ機会を得ることは大変有意義であるので、是非その主旨を踏まえてしっかり研修して欲しい。今回の体験を自分達だけで終わらせず、後輩達に引き継いでいけるよう仙台

### 平成23年度 冬季 短期海外留学研修 参加者一覧

#### ○ハワイ州立大学英語研修

期間 2月5日～2月26日  
 引率者 柴田 恵里香、山口 貴久、渡邊 一郎、若生 可奈、遠山 知寿  
 参加学生 須貝 真実（体育2年） 高垣 一枝（体育2年）  
 齋丸 愛（運動栄養2年） 海上 拓哉（体育1年）  
 嶋田 直人（健康福祉1年） 鶴巻 雄大（現代武道1年）  
 参加職員 品田 由佳、芦川 尚子

#### ○カヤ二応用科学大学

期間 2月5日～3月2日  
 引率者 高橋まゆみ、笠原 岳人、小室 良太郎  
 参加学生 泉 幸（健康福祉3年） 松川 瑛司（健康福祉3年）  
 山田 彩夏（健康福祉2年）

#### ○韓国国立体育大学

期間 2月20日～2月24日  
 引率者 齋藤 浩二、鎌田 幸雄、中鉢 芳尚  
 参加学生 大谷 健太郎（現代武道1年） 洪谷 正行（現代武道1年）  
 千葉 裕也（現代武道1年） 新沼 智将（現代武道1年）  
 橋本 力（現代武道1年）

#### ○ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修

期間 2月20日～2月26日  
 引率者 千葉 勝彦、菊地 太一、白幡 恭子、高橋 陽介  
 参加学生 成田 大貴（体育2年） 外谷 凉将（体育2年）  
 村松 里美（体育2年） 山崎 加奈子（体育2年）  
 船山 美希（体育2年） 東館 亮太郎（運動栄養2年）  
 渡辺 尚（運動栄養2年） 山本 康平（体育1年）  
 三好 聖奈（体育1年） 小坂 望美（体育1年）

#### ○台東大学

期間 3月4日～3月29日  
 引率者 藤原 徹、荒木 迪  
 参加学生 佐藤 志帆（健康福祉3年） 小林 真衣（体育2年）

## 船山弘希さんがプロスノーボーダーに



スノーボード同好会の船山弘希さん（健康福祉学科4年）がプロスノーボーダーとして1月にデビューを果たしました。これは昨シーズン、全日本スノーボード選手権大会デュアルスラロームレースなどの日本スノーボード協会（JSBA）の公認競技会で上位入賞するなどして、プロ資格条件であるシーズンランキング8位以内をクリアしたもので、今シーズンからはプロ資格を有してレースに挑みます。船山さんは宮城県立塩釜高校出身。4歳から父

親の奨めでスノーボードをはじめ、スラロームの虜になったとのこと。高校3年で全日本ジュニア選手権（18歳以下）に優勝するなど頭角を現しました。そして、幼少の頃から憧れの存在であった本学OBの鶴岡剣太郎選手（平成8年度卒/トリノ冬季五輪代表選手）の母校である本学に進学した。大学では日本スノーボード協会公認レースを転戦するほか、学生大会でも全日本学生スノーボード選手権大会でジャイアントスラローム（GS）とスラローム（SL）の2種目で2連覇を果たすなど活躍しました。今後は競技を通してジュニアの育成にも関わっていきたくと話しました。船山さんの活躍に期待がかかります。

## 大分三好ヴァイセアドラー入団内定の細川優希さんが朴澤学長に挨拶



先月のマンスリーでも紹介しましたが、男子バレーボール部の細川優希さん（体育4年）がVプレミアリーグの大分三好ヴァイセアドラーから入団内定をもらい、既に内定選手としてチームの一員として試合に出場しています。細川さんが1月26日（木）に石丸講師と共に朴澤学長にVプレミアリーグ入団内定の報告と、チームのポスターを手渡しました。

細川さんはチームのスターティングメンバーに名を連ね、チームの主力選手として活躍しています。「プロチームは戦略も緻密で、自分の実力がまだまだ足りない実感している。高いレベルの中で成長したい」とレベルアップを誓っていました。

## 硬式野球部の高島光紘さん きらやか銀行に内定



硬式野球部の高島光紘さん（体育4年）が「きらやか銀行（本店：山形県山形市）」に入行し、同行硬式野球部に所属することが決まりました。高島さんは野球強豪校である尽誠学園高校（香川県）出身で、高校3年時には3番・左翼手として甲子園の舞台も踏んでいます。本学では1年時より主に1番・中堅手として出場し、大学2年の秋季リーグ戦では最多盗塁賞とベストナイン（外野手）のタイトルを獲得されるなど俊足巧打の中心選手として活躍されました。しかし、4年間目標にしてきた明治神宮球場（全国大会）への進出は叶わず、後輩たち

にその思いを託すことになりました。そして自身の目標を明治神宮球場から社会人野球の全国大会の主会場とである東京ドーム・大阪ドームへと切り替え、決意新たに引退後も精力的に日々後輩たちと共に練習に取り組んでいます。

「大学卒業後も野球に身を投じることができて素直に嬉しい。きらやか銀行は去年の都市対抗野球大会東北地区予選で代表決定戦まで進出し、全国大会まであと1勝だった勢いのあるチーム。1年目からレギュラーを獲得し、チームの全国大会出場に貢献したい」と話していました。

なお、きらやか銀行には舟田友哉選手（平成17年度卒）、梅津拓也選手（平成20年度卒）中島周作選手（平成21年度卒）、三浦泰志選手（平成22年度卒）が在籍し、活躍しています。